

1988年 大会記録

国際

◇コンコード国際大会=男子グレコローマン (5月27~28日、米国・コンコード)

▼48kg級 齊藤育造 (和歌山県教委) = 5位、▼62kg級 西口茂樹 (日体大助) = 2位、▼68kg級 大久保康裕 (自衛隊) = 3位、▼82kg級 向井孝博 (自衛隊) = 2位、▼90kg級 森山泰年 (自衛隊) = 2位、▼100kg級 福辺雅彦 (奈良・御所工高教) = 6位

◇世界ジュニア選手権 (7月11~17日、オーストリア・ウォルフブルグ)

《男子フリースタイル》▼46kg級 松谷憲二 (和歌山・笠田高) = 三失、▼50kg級 松野繁 (群馬・西邑楽高) = 5位、▼54kg級 佐藤貢 (秋田・秋田商) = 3位、▼58kg級 山野誠 (群馬・西邑楽) = 四失、▼63kg級 吉本収 (国士舘大) = 二失、▼68kg級 平塚洋充 (日大) = 7位、▼74kg級 中島智彦 (秋田・秋田商高) = 二失、▼81kg級 前田利宏 (岐阜・岐阜西工高) = 10位、▼88kg級 藤田和之 (千葉・八千代松陰高) = 6位、▼115kg級 山地健仁 (青森・八戸工高) = 二失

《男子グレコローマン》▼46kg級 川田征勝 (岐阜・岐阜工高) = 9位、▼50kg級 尾白賢治 (和歌山・和歌山北高) = 二失、▼54kg級 秋元浩一 (群馬・関東学園付高) = 三失、▼58kg級 林雄一 (新潟・巻農高) = 6位、▼63kg級 川島健二 (愛知・星城) = 10位、▼68kg級 塩川和仁 (日体大) = 10位、▼74kg級 杉山直樹 (岐阜・岐阜工) = 二失、▼81kg級 小島達也 (群馬・館林高) = 8位、▼88kg級 矢ヶ崎秀樹 (山梨・峡北高) = 二失、▼115kg級 斎藤丈徳 (宮城・東北電子工高) = 9位

◇エスポワール・ワールドカップ=男子フリースタイル (7月14~16日、カナダ・セントジョーンズ)

3位 (1勝2敗)

1回戦 日本● [4-6] ○米国

2回戦 日本● [1-9] ○ソ連

3回戦 日本○ [8-1] ●カナダ

《個人順位》▼48kg級 山下忍 (日体大) = 2位、▼52kg級 笹山秀雄 (自衛隊) = 2位、▼57kg級 山下勝 (国士舘大) = 2位、▼62kg級 奥山恵二 (日体大) = 2位、▼68kg級 嶺岸武 (日体大) = 2位、▼74kg級 田崎光之 (国士舘大) = 3位、▼82kg

級 石沢常光（早大）＝3位、▼90kg級 高橋和生（日大）＝4位、▼100kg級 相ノ山晃（中大）＝3位、▼130kg級 鈴木賢一（大東大）＝4位

◇エスポワール・ワールドカップ＝男子グレコローマン（7月27日～8月5日、ギリ

シャ・アテネ）

3位（2勝3敗）

1回戦 日本○ [6－4] ●米国

2回戦 日本● [3－7] ○ギリシャ

3回戦 日本● [0－10] ○ソ連

4回戦 日本○ [8－2] ●エジプト

5回戦 日本● [2－8] ○キューバ

《個人成績》▼48kg級 山本哲也（日体大）＝3位、▼52kg級 清水光二（日体大）＝3位、▼57kg級 藤岡道三（日体大）＝優勝、▼62kg級 福永等（日体大）＝5位、▼68kg級 今村浩之（日体大）＝4位、▼74kg級 田崎光之（国士舘大）＝6位、▼82kg級 永田裕志（日体大）＝6位、▼90kg級 仁田昭彦（明大）＝4位、▼100kg級 野々村孝（山梨学院大）＝5位、▼130kg級 神子沢健一（自衛隊）＝3位

◇ソウル五輪（9月18日～10月1日）

《男子フリースタイル》▼48kg級 小林孝至（ユナイテッドステイール）、▼52kg級 佐藤満（日体大助手）、▼57kg級 金浜良（日大）、▼62kg級 栄和人（奈良県教委）、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドステイール）、▼74kg級 原喜彦（日体大研）、▼82kg級 伊藤敦（日体大研）、▼90kg級 太田章（早大教）、▼100kg級 本田多聞（自衛隊）、▼130kg級 小幡弘之（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）、▼57kg級 中留俊司（京都・南八幡高教）、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）、▼68kg級 大久保康裕（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 向井孝博（自衛隊）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 福辺雅彦（奈良・御所工高教）、▼130kg級 出口一也（国士舘大）

◇ハパラダ国際大会＝男子グレコローマン（12月3～4日、スウェーデン・ハパラ

ダ）

▼48kg級 大橋正教（山梨学院大職）＝優勝、▼57kg級 藤岡道三（日体大）＝2位、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）＝3位、▼68kg級 今村浩之（日体大）＝二失、▼74kg級 湯浅邦茂（山梨・緑ヶ丘スポーツ公園）＝4位

◇アジア選手権＝男子フリースタイルのみ（12月12～16日、パキスタン・イスラマバード）

ード)

▼48kg級 山下忍（日体大）＝5位、▼52kg級 飯田泰次（中大）＝2位、▼57kg級 山下勝（国士舘大）＝2位、▼62kg級 奥山恵二（日体大）＝5位、▼68kg級 木村孝弘（早大）＝3位、▼74kg級 下玉利太（日大）＝2位、▼82kg級 石沢常光（早大）＝4位、▼90kg級 浅沼俊幸（国士舘大）＝2位、▼100kg級 中西学（専大）＝二失、▼130kg級 出口一也（国士舘大）＝4位

国内

◇ソウル五輪第2次選考会（3月7～9日、東京・青少年総合センター）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 入江隆（自衛隊）、▼52kg級 佐藤満（日体大助手）、▼57kg級 金浜良（日大）、▼62kg級 栄和人（奈良県教委）、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドスティール）、▼74kg級 原喜彦（日体大研）、▼82kg級 伊藤敦（日体大助手）、▼90kg級 赤石明雄（東山梨教育事務所）、▼100kg級 本田多聞（自衛隊）、▼130kg級 小幡弘之（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）、▼57kg級 中留俊司（京都・南八幡高教）、▼62kg級 西口茂樹（日体大）、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 向井孝博（自衛隊）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 福辺雅彦（奈良・御所工高教）、▼130kg級 出口一也（国士大）

◇全国高校選抜大会（3月29～30日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（初）、[2] 鹿児島・鹿児島商工、[3] 岐阜・岐阜工、岐阜・岐阜西工

《個人戦優勝者》▼46kg級 川田征勝（岐阜・岐阜工）、▼50kg級 松野繁（群馬・西邑楽）、▼54kg級 阿倍三子郎（東京・京北）、▼58kg級 山野誠（群馬・西邑楽）、▼63kg級 福田健治（栃木・足利工大付）、▼68kg級 赤石光輝（青森・東奥義塾）、▼74kg級 中島智彦（秋田・秋田商）、▼115kg級 藤田和之（千葉・八千代松陰）

◇世界ジュニア選手権選考会（4月4～5日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル》▼46kg級 松谷憲二（和歌山・笠田高）、▼50kg級 松野繁（群馬・西邑楽高）、▼54kg級 佐藤貢（秋田・秋田商）、▼58kg級 山野誠（群馬・

西邑楽)、▼63kg級 小山田美香(日大)、▼68kg級 平塚洋充(日大)、▼74kg級 中島智彦(秋田・秋田商高)、▼81kg級 前田利宏(岐阜・岐阜西工高)、▼88kg級 藤田和之(千葉・八千代松陰高)、▼115kg級 山地健仁(青森・八戸工高)

《男子グレコローマン》▼46kg級 川田征勝(岐阜・岐阜工高)、▼50kg級 尾白賢治(和歌山・和歌山北高)、▼54kg級 秋元浩一(群馬・関東学園付高)、▼58kg級 林雄一(新潟・巻農高)、▼63kg級 川島健二(愛知・星城)、▼68kg級 塩川和仁(日体大)、▼74kg級 杉山直樹(岐阜・岐阜工)、▼81kg級 小島達也(群馬・館林高)、▼88kg級 矢ヶ崎秀樹(山梨・峡北高)、▼115kg級 斎藤丈徳(宮城・東北電子工高)

◇西日本学生春季新人戦=男子フリースタイル ()

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 土屋忠彦(福岡大)、▼52kg級 奥田雅彦(福岡大)、▼57kg級 宮下武士(徳山大)、▼62kg級 嶋幸也(徳山大)、▼68kg級 大島孝雄(福岡大)、▼74kg級 中井直也(同志社大)、▼82kg級 岡田隆志(近大)、▼90kg級 永渕智英(福岡大)、▼130kg級 末雄次(同志社大)

◇全日本選手権(5月4~5日、東京・代々木競技場第2体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 小林孝至(ユナイテッドステイール)、▼52kg級 佐藤満(日体大助手)、▼57kg級 金浜良(日大)、▼62kg級 栄和人(奈良県教委)、▼68kg級 赤石光生(ユナイテッドステイール)、▼74kg級 原喜彦(日体大研)、▼82kg級 菊地隆(和歌山県教委)、▼90kg級 太田章(早大教)、▼100kg級 本田多聞(自衛隊)、▼130kg級 小幡弘之(日大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 斉藤育造(和歌山県教委)、▼52kg級 宮原厚次(自衛隊)、▼57kg級 中留俊司(京都・南八幡高教)、▼62kg級 西口茂樹(日体大助)、▼68kg級 大久保康裕(自衛隊)、▼74kg級 伊藤広道(自衛隊)、▼82kg級 向井孝博(自衛隊)、▼90kg級 森山泰年(自衛隊)、▼100kg級 福辺雅彦(奈良・御所工高教)、▼130kg級 出口一也(国士館大)

◇ソウル五輪代表決定プレーオフ(5月12日、東京・代々木競技場第2体育館)

《フリースタイル勝者》▼48kg級 小林孝至(ユナイテッドステイール)、▼82kg級 伊藤敦(日体大助)、▼90kg級 太田章(早大助)

《グレコローマン勝者》▼68kg級 大久保康裕(自衛隊)

◇東日本学生リーグ戦(5月25~27日、東京・駒沢体育館)

《順位》[1] 日体大(10年連続12度目)、[2] 日大

(A組) [1] 日体大、 [2] 東洋大、 [3] 専大、 [4] 早大、 [5] 大東大、 [6] 明大

(B組) [1] 日大、 [2] 国士大、 [3] 中大、 [4] 山梨学院大、 [5] 東海大、 [6] 拓大

◇西日本学生選手権 ()

《男子フリースタイル優勝者》 ▼48kg 級 池田徹 (福岡大)、 ▼52kg 級 小泉円 (同志社大)、 ▼57kg 級 佐藤誉士 (福岡大)、 ▼62kg 級 中井直也 (同志社大)、 ▼68kg 級 内山栄一 (同志社大)、 ▼74kg 級 岡田孝志 (近大)、 ▼82kg 級 岩本昭宏 (福岡大)、 ▼90kg 級 西澤憲彦 (同志社大)、 ▼130kg 級 横谷豊 (徳山大)

《男子グレコローマン優勝者》 ▼48kg 級 坂井保志 (同志社大)、 ▼52kg 級 小泉円 (同志社大)、 ▼57kg 級 下野園公 (福岡大)、 ▼62kg 級 中井直也 (同志社大)、 ▼68kg 級 内山栄一 (同志社大)、 ▼74kg 級 開保則 (南九州大)、 ▼82kg 級 岩本昭宏 (福岡大)、 ▼90kg 級 西澤憲彦 (同志社大)、 ▼130kg 級 末雄次 (徳山大)

◇エスポワール・ワールドカップ代表選考会=男子フリースタイル(6月2~4日、東京・青少年総合センター)

▼48kg 級 山下忍 (日体大)、 ▼52kg 級 笹山秀雄 (自衛隊)、 ▼57kg 級 山下勝 (国士舘大)、 ▼62kg 級 奥山恵二 (日体大)、 ▼68kg 級 嶺岸武 (日体大)、 ▼74kg 級 田崎光之 (国士舘大)、 ▼82kg 級 石沢常光 (早大)、 ▼90kg 級 高橋和生 (日大)、 ▼100kg 級 相ノ山晃 (中大)、 ▼130kg 級 鈴木賢一 (大東大)

◇東日本学生春季新人戦 (6月14~16日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 ▼48kg 級 平野孝喜 (山梨学院大)、 ▼52kg 級 藤村和人 (日大)、 ▼57kg 級 山下勝 (国士舘大)、 ▼62kg 級 松元大吉 (東洋大)、 ▼68kg 級 奥山恵二 (日体大)、 ▼74kg 級 寺沢淳 (中大)、 ▼82kg 級 井筒忍 (専大)、 ▼90kg 級 石沢常光 (早大)、 ▼90kg 以上級 鈴木賢一 (大東大)

《男子グレコローマン優勝者》 ▼48kg 級 若松正 (東洋大)、 ▼52kg 級 清水光二 (日体大)、 ▼57kg 級 佐藤貢 (日体大)、 ▼62kg 級 福永等 (日体大)、 ▼68kg 級 今村浩之 (日体大)、 ▼74kg 級 伊藤強 (早大)、 ▼82kg 級 石沢常光 (早大)、 ▼90kg 級 仁田昭彦 (明大)、 ▼90kg 以上級 野々村孝 (山梨学院大)

◇西日本学生春季リーグ戦 (6月24~26日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《一部》 [1] 同志社大 (3季連続11度目)、 [2] 福岡大、 [3] 近大、 [4]、 [5]、

[6]

◇全日本社会人選手権（7月2～3日、東京・青少年総合センター）

《団体戦優勝チーム》▼実業団 ユナイテッドスティールA、▼クラブ 山梨クラブ

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 大橋正教（山梨ク）、▼52kg級 黒野政康（アイシン精機）、▼57kg級 角地山豊（警視庁）、▼62kg級 吉田実（自衛隊）、▼68kg級 泉保久（自衛隊）、▼74kg級 佐川正吉（自衛隊）、▼82kg級 和久井始（自衛隊）、▼90kg級 赤石明雄（山梨ク）、▼100kg級 伊藤勝春（丸藤シートパイル）、▼130kg級 大川浩一（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 大橋正教（山梨ク）、▼52kg級 中森昭平（警視庁）、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg級 吉田実（自衛隊）、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）、▼74kg級 足立勝司（山梨ク）、▼82kg級 東出明（京都・峰山高教）、▼90kg級 赤石明雄（山梨ク）、▼100kg級 近藤務（自衛隊）、▼130kg級 神子沢健一（自衛隊）

◇インターハイ（8月2～5日、兵庫・三田市立城山公園体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（3年連続3度目）、[2] 鹿児島・鹿児島商工、[3] 岐阜・岐阜工、兵庫・神戸西

《個人戦優勝者》▼46kg級 川田征勝（岐阜・岐阜工）、▼50kg級 松野繁（群馬・西邑楽）、▼54kg級 坪井勇（茨城・霞ヶ浦）、▼58kg級 山野誠（群馬・西邑楽）、▼63kg級 川島健二（愛知・星城）、▼68kg級 赤石光輝（青森・東奥義塾）、▼74kg級 中島智彦（秋田・秋田商）、▼74kg以上級 藤田和之（千葉・八千代松陰）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月19日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼46kg級 玉城秀網（沖縄・嘉手納）、▼50kg級 朝比奈巖（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg級 秋元浩一（群馬・関東学園）、▼58kg級 林雄一（新潟・巻農）、▼63kg級 神田公一（茨城・霞ヶ浦）、▼68kg級 大島辰徳（京都・宇治）、▼74kg級 伊藤健一（三重・桑名工）、▼81kg級 渡辺英行（山形・山形商）、▼87kg級 矢ヶ崎秀樹（山梨・峡北）、▼115kg級 星野章（東京・東京実）

◇全日本学生選手権（8月31～9月3日、大阪・大阪府立体育会館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 山下忍（日体大）、▼52kg級 沖山功（日体大）、▼57kg級 佐々木一郎（日体大）、▼62kg級 奥山恵二（日体大）、▼68kg級

安達巧（日体大）、▼74kg 級 下玉利太（日大）、▼82kg 級 石沢常光（早大）、▼90kg 級 浅沼俊幸（国士舘大）、▼100kg 級 中西学（専大）、▼130kg 級 出口一也（国士舘大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 山本哲也（日体大）、▼52kg 級 清水光二（日体大）、▼57kg 級 杉山慶太（日体大）、▼62kg 級 竹下敬（日体大）、▼68kg 級 山田琢也（専大）、▼74kg 級 得本啓次（日体大）、▼82kg 級 永田裕志（日体大）、▼90kg 級 久米田雅勝（日大）、▼100kg 級 中西学（専大）、▼130kg 級 出口一也（国士舘大）

◇西日本学生新人戦（ ）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 池田徹（福岡大）、▼52kg 級 西村敦彦（近大）、▼57kg 級 吉村卓勇（同志社大）、▼62kg 級 大島孝雄（福岡大）、▼68kg 級 新垣義和（南九州大）、▼74kg 級 小西博昭（関学大）、▼82kg 級 宮崎隆光（桃山学院大）、▼90kg 級 岡田隆志（近大）、▼130kg 級 安楽純二（同志社大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 池田徹（福岡大）、▼52kg 級 西村敦彦（近大）、▼57kg 級 山元正志（近大）、▼62kg 級 大島孝雄（福岡大）、▼68kg 級 中井直也（同志社大）、▼74kg 級 奥田博生（同志社大）、▼82kg 級 岡田隆志（近大）、▼90kg 級 中江雅希（近大）、▼130kg 級 安楽純二（同志社大）

◇全日本学生王座決定戦（10月4～5日、東京・駒沢体育館）=決勝成績

日体大○ [7-2] ●国士舘大

※日体大は11年連続12度目の優勝

◇東日本学生グレコローマン選手権

◇全日本女子選手権（10月5・11日、東京・城西高、後樂園ホール）

《優勝者》▼44kg 級 山本美憂（日体ク）、▼47kg 級 棗田朋子（吹田市民教室）、▼50kg 級 小滝初江（日体ク）、▼53kg 級 遠藤美子（東洋大）、▼57kg 級 坂本涼子（吹田市民教室）、▼61kg 級 星川君枝（ユナイテッドスティール）、▼65kg 級 岩間利香（ユナイテッドスティール）、▼70kg 級 浦野弥生（日体ク）、▼75kg 級 脇恵衣子（全日本女子プロレス練習生）、▼75kg 以上級 川戸明子（京都・宇治高）

◇国体（10月16～19日、京都・弥栄町社会体育館、丹後町民体育館）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 喜多龍昭（長崎・島原工高教）、▼52kg級 坂木勇夫（長崎・専大）、▼57kg級 佐々木一郎（茨城・日体大）、▼62kg級 栄和人（奈良・県教委）、▼68kg級 嶺岸武（茨城・日体大）、▼74kg級 高橋信明（青森・県協会）、▼82kg級 菊地隆（和歌山・県教育庁）、▼90kg級 赤石明雄（山梨・東山教育事務所）、▼100kg級 中西学（京都・専大）、▼130kg級 奈良英則（東京・警視庁）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 蝦名康一（埼玉・自衛隊）、▼52kg級 中森昭平（東京・警視庁）、▼57kg級 黒飛健（埼玉・自衛隊）、▼62kg級 吉田健（京都・山城運動公園）、▼68kg級 山田琢也（京都・専大）、▼74kg級 湯浅邦茂（山梨・県立ろう学教）、▼82kg級 屋比久保（沖縄・北中条高教）、▼90kg級 東出徹（奈良・高取高教）、▼100kg級 近藤努（埼玉・自衛隊）、▼130kg級 出口一也（和歌山・国士舘大）

《少年フリースタイル優勝者》▼46kg級 川田征勝（埼玉・埼玉栄）、▼50kg級 松野繁（群馬・西邑楽）、▼54kg級 阿部三子郎（東京・京北）、▼58kg級 吉越啓城（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 川島健二（愛知・星城）、▼68kg級 鈴木修（茨城・土浦日大）、▼74kg級 児玉健（茨城・霞ヶ浦）、▼81kg級 中島智彦（秋田・秋田商）、▼88kg級 藤田和之（千葉・八千代松陰）、▼115kg級 星野章（東京・東京実）

《少年グレコローマン優勝者》▼46kg級 河合享（山形・山形南）、▼50kg級 尾白賢治（和歌山・和歌山北）、▼54kg級 秋元浩一（群馬・関東学園）、▼58kg級 小笠原峰彦（青森・八戸工大一）、▼63kg級 福田健治（栃木・足利工大付）、▼68kg級 大島辰徳（京都・宇治）、▼74kg級 伊藤健一（三重・桑名工）、▼81kg級 石庭新五（宮崎・都城南）、▼88kg級 小原康緒（埼玉・川口）、▼115kg級 山地健二（青森・八戸工）

◇東日本学生秋季新人戦（11月14～16日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 小松崎智久（東農大）、▼52kg級 水野将嘉（早大）、▼57kg級 関昌弘（早大）、▼62kg級 鈴木信行（日体大）、▼68kg級 太田拓弥（日体大）、▼74kg級 伊藤強（早大）、▼82kg級 金永峰（日大）、▼90kg級 仁田昭彦（明大）、▼90kg以上級 高橋則行（東洋大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 加藤欣史（東海大）、▼52kg級 坂村智幸（東農大）、▼57kg級 花原大介（日体大）、▼62kg級 松田昌明（国士舘大）、▼68kg

級 福永等（日体大）、▼74kg 級 石川宏明（日大）、▼82kg 級 永田裕志（日体大）、▼90kg 級 石沢常光（早大）、▼90kg 以上級 鈴木賢一（大東大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月24～26日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 同志社大（4季連続12度目）、[2] 福岡大、[3] 徳山大、[4]、[5]、[6]

◇全国社会人オープン（11月19～29日、神奈川・横浜市消防訓練センター）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 福永明彦（自衛隊）、▼52kg 級 大橋正教（山梨クラブ）、▼57kg 級 角地山豊（警視庁）、▼62kg 級 吉田実（自衛隊）、▼68kg 級 宮本公裕（福井県協会）、▼74kg 級 有延伸一（国士舘クラブ）、▼82kg 級 梅木稔（朝霞消防署）、▼90kg 級 平山宣伸（レスリング岡山）、▼100kg 級 篠木英治（三洋電気）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 福永明彦（自衛隊）、▼52kg 級 大橋正教（山梨クラブ）、▼57kg 級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg 級 安楽清一（自衛隊）、▼68kg 級 大城利幸（自衛隊）、▼74kg 級 有延伸一（国士舘クラブ）、▼82kg 級 三宅靖志（東海商船）、▼90kg 級 平山宣伸（レスリング岡山）、▼100kg 級 篠木英治（三洋電気）

◇全日本大学選手権（12月7～8日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼48kg 級 山下忍（日体大）、▼52kg 級 坂本勇（専大）、▼57kg 級 金浜良（日大）、▼62kg 級 奥山恵二（日体大）、▼68kg 級 安達巧（日体大）、▼74kg 級 下玉利太（日大）、▼82kg 級 石沢常光（早大）、▼90kg 級 浅沼俊幸（国士舘大）、▼100kg 級 中西学（専大）、▼130kg 級 間山泰範（日体大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（4年連続11度目）、[2] 専大、[3] 日大

◇全日本女子オープン選手権（1989年3月21日、東京・青少年総合センター）

《優勝者》▼44kg 級 山本美憂（日体大）、▼48kg 級 棗田朋子（吹田市民教室）、▼50kg 級 遠藤美子（東洋大）、▼53kg 級 東陽子（吹田市民教室）、▼57kg 級 坂本涼子（吹田市民教室）、▼61kg 級 星川君枝（ユナイテッドスティール）、▼65kg 級 飯島晶子（木口道場）、▼70kg 級 浦野弥生（日体大）、▼75kg 級 船越光子（壬生ちびっ子教室）、▼75kg 以上級=出場なし